

目 次

挨 拶	1
講 演 「大学を地域にひらく：金沢大学『角間の里山自然学校』の取り組み」	3
提 言 金沢大学から	9
話題提供 地域から	10
地域から	11
意見交換会	12
ま と め	17
挨 拶	18
日程・プログラム	19

平成16年度金沢大学社会貢献推進事業

金沢大学と語ろう!!

タウン・ミーティングin珠洲市



地域とともに、
金沢大学
自然・文化・人づくり・にぎわい

「珠洲の活力と大学の知を結ぶ」

「地域に開かれた大学」を目指して金沢大学が地域に果たす役割を考え、地域住民と語る場として「タウン・ミーティング」を実施してきました。平成14年度以降、輪島市、加賀市、鶴来町で開催し、大学へのさまざまな要望を聞くことができ、それを機にいくつもの連携が芽生えています。

大学と珠洲市との連携、大学が奥能登地区に果たす役割についてざっくばらんに話し合います。

みんなの声が、地域の活力と金沢大学の知を結びます。

日 時

プログラム

平成16年11月18日木
18:30~21:00

会 場

珠洲市産業センター

珠洲市上戸町北方1-6-2

参加
無料

参加申込みは必要ありません。
当日、ご来場下さい。

お問い合わせ：
金沢大学社会貢献室 TEL076-264-5290
珠洲市企画振興課 TEL0768-82-7726

主催：金沢大学

共催：珠洲市、珠洲市教育委員会、金沢大学・石川県・金沢市連絡協議会

平成16年度金沢大学社会貢献推進事業

金沢大学タウン・ミーティングin珠洲市

総合テーマ 「珠洲の活力と大学の知を結ぶ」

日 時 平成16年11月18日(木) 18:30~21:00

場 所 珠洲市産業センター

挨 拶

橋本 哲哉（金沢大学理事(情報担当)・副学長・社会貢献室長）

大学と社会貢献

今年の4月から金沢大学は国立大学法人になり、組織、中身とも大きく変えつつあります。いわば、それまでの親方日の丸の国立大学から、私立大学とのちょうど間くらいの組織になったという感じです。

石川県には短大も含めてたくさんの大学があり、大学生人口で見ますと、出していく人口よりも入ってくる18歳人口のほうが多いです。これは、日本海側地域では非常に珍しいと思います。そ

ういう意味では、大学生とそれを教育する大学の存在感をもっと高めて、もちろん我々金沢大学も地域の中で役割を果たし、よりよい教育をし、全国からもっと多くの若者を呼んで、活気のある県、市、町にしたいと考えています。

それにはもちろん従来もやってきましたが、法人化後はもっと力を入れて、研究と教育にプラスして、社会貢献も大学における重要な仕事として位置づける政策を打ち出しています。その一環として、本日は「珠洲の活力と大学の知を結ぶ」というテーマで、このタウン・ミーティングを通じて実際に地域と大学の連携を模索したいと思っています。



挨 拶

貝藏 治（珠洲市長）

新たなまちづくりに向けて

本日は、金沢大学から20名を超える皆さんに珠洲へおいでいただき、珠洲市民として大変うれしく、歓迎申し上げます。

珠洲市は昨年、長年取り組んできた原子力問題が凍結となり、今、新たなまちづくりということで、市民の皆さんと「市長と語る会」を開かせていただいている。その中で、人口が減少しつつある過疎地であり、また半島の先端という立地であっても、独自性を出して「住んでよかった」といわれるまちづくりとはどうあるべきか、能登空港を利用した生産者と消費者のつながり、そのマーケティングをどのようにしてやっていくのかなど、いろいろなお話を伺っています。

今日はまさに大学の知と珠洲市の活力ということで、このような会合を持っていただきました。大いにご意見、ご提言をいただき、この会が市・大学双方にとって有意義なものになりますよう祈念してご挨拶とさせていただきます。



講 演

「大学を地域にひらく：金沢大学『角間の里山自然学校』の取り組み」

講 師 中村 浩二（金沢大学自然計測応用研究センター教授）

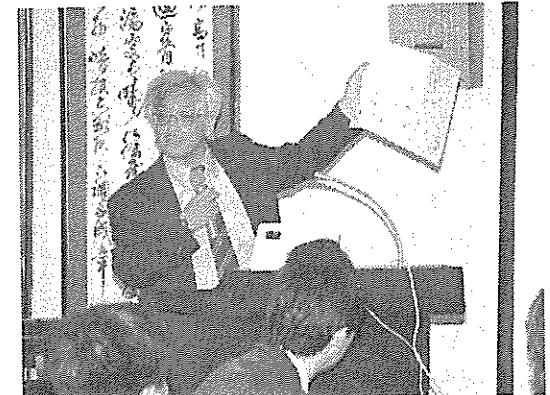
珠洲は絶滅危惧昆虫の宝庫

私は「角間の里山自然学校」は、これからぜひ珠洲市にお世話になりたいと思っています。今日は、私の研究室から、これまですでに珠洲市に調査に来たことのある人や、これからぜひ調査したいという人が9人来ています。

珠洲はレッドデータブックに載っている絶滅危惧種の昆虫がたくさんいるすごくホットスポットです。今日も出席してくださっている東大大学院生の西原さんは、長年珠洲で調査をされています。私は昨年初めて西原さんや彼の所属する鷺谷研究室のグループと一緒に珠洲のため池めぐりをしました。

ところが、最近、大変困ったことが起こっています。その貴重な珠洲市のため池にブラックバスを放す人がいて、それがゲンゴロウやヤゴなどを食べてしまうのです。バスは非常に適応力がありますから、水を抜いて、バスを退治して、今の珠洲のため池をいい状態に守っていくことが大事です。

ただ、過疎化や高齢化という厳しい問題がある、だんだん里山が管理できなくなったり、棚田が休耕田になったり、ため池が汚くなったりしています。そうすると、バスがいなくても貴重な昆虫はいなくなってしまいます。やはり農業が生き生きしていることが非常に大切なことです。ぜひみんなで珠洲の貴重なため池を守りたいものです。



プロフィール

中村 浩二
金沢大学自然計測応用研究センター
(生物多様性研究部門)教授
京都大学農学部農林生物学科卒業(1970年),
京都大学大学院農学研究科農林生物学専攻博士課程単位修得退学(1977年)。農学博士。
金沢大学理学部助手(1977年)。金沢大学理学部助教授。金沢大学理学部教授を経て、現職。
専門分野は、生態学。1999年より金沢大学「角間の里山自然学校」の代表として、角間丘陵の保全と総合的活用に取り組んでいる。

里山の重要性

環境省は、2002年春に出した「自然生物多様性国家戦略」の中で、日本の生物多様性は、人為破壊による環境の悪化、過疎化・高齢化による里山問題、そして先ほどあったブラックバスなどの外来種の三つの危機に瀕していると述べています。この中で国家として里山をよくしたいと、はつきり宣言しました。また、石川県の「いしかわの里山自然生態系を次の世代へ伝えるために」というパンフレットにも、奥能登の里山、特にため池が大事であると書かれています。

角間の里山自然学校が使っている角間キャンパス内の里山は、大学が研究や教育、地域貢献のために使っていることが評価されてパンフレットの中で重要な里山の一つに指定されていますが、珠洲の里山は、そのままで非常に優れた自然文化資源です。

珠洲には農村の素晴らしい風景があります。里山は日本の原風景ですが、最近はどんどん宅地に造成されたり、あまり使われずに荒れつつあるという問題があります。

里山は、日本国土の4割、石川県では7割を占め、水田を中心とした日本の風土、文化の根源ともいえます。そして、里山には絶滅危惧動物がたくさんおり、どんどん絶滅しつつあります。今年のクマの異常出没は、里山を手入れせず、山が茂りすぎているために、クマが家の近くまで平気で来ていることが原因の一つです。

いずれにしろ、里山は21世紀の日本を左右する非常に大事なものであり、それを次世代に残すことが私たちの使命です。

里山自然学校の活動

角間の里山は、金沢駅から近くにあり、75haほどの大きな里山です。我々はそこで保全作業や動植物の観察会などを行っています。

初めは、角間の元地主さんたちが「山が荒れているが、大学が本気でこの山を保全するのだったら協力しよう」と言ってくださったのが、5年前に里山自然学校ができたきっかけです。今では子供たちが遊びに来たり、授業で大学生が幼稚園の子と一緒に山を歩いたり、あるいは竹林の整備をして竹炭を焼いたりしています。田んぼも25年放ったらかしになっていたのですが、元の持ち主の協力を得て棚田の復元活動をしています。学生たちはここを使って調査をし、卒論なども書いています。また、私の研究室では珠洲でも同様に、里山の昆虫の多様性を調べています。

私のグループにとって研究面でいちばん関心があるのは、ちゃんと枝打ちをしたり、棚田を復元したりすることで、生物多様性がどのように変わるかを実証的に調べることです。そういう意味では珠洲は非常に大事なところです。どうして珠洲ではたくさんマツタケが出るのか、昆虫はどれだけいるのかということを調べたいと思っています。

私たちの里山自然学校は、研究も教育もしていますが、非常に大事なことは里山メイトの方々の自主的な活動です。今、里山メイトが400人ほどいて、いろいろなアイデアを出して私たちの背中を押し続けてくれています。

大変うれしいのは、来年の3月に白峰村の築300年という大きな庄屋さんの家が移築されることで、私たちはそこを交流、教育、研究のセンターにしたいと考えています。

ただ、金沢大学には1万人を超えるたくさんの学生がいるのですが、まだまだ参加が少ないのです。そこで、私は学生諸君に金沢大学の里山だけでなく、能登にも皆で一緒に行こうという提案をしたいと思っています。

里山を通じた交流

我々は、珠洲市あるいは珠洲市の周辺へ調査に来たいのです。そのときに、これまできちんと挨拶をしていませんでしたが、これからはしかるべきところに挨拶に行き、調査許可をいただき、調査が終わったら報告し、結果がまとまたら公開の報告会をして、皆さんと意見交流をしたいと考えています。そういうやり取りが積み重なって、自然にみんなが集まる場所が



できればありがたいと思います。それがやがて金沢大学珠洲サテライトになってゆくのかもしれません。

来年度は、珠洲市で東大の鷲谷研究室と私たちの研究室の合同で研究会をやろうと計画しています。そこに集まる人は、みんな里山に関心の高い人ばかりです。研究者だけでなく、市民活動をされている方もたくさん来ますので、珠洲市の優れた自然を実感してもらえると思います。

それから、角間の里山自然学校が珠洲の里山を見に来たり、マツタケの見学にきたり、逆に皆さんに角間に来ていただいたらできればと思っています。

また、里山を持つ金沢大学、京都の龍谷大学、京都女子大、九州大学の四大学で里山の交流会をやっているのですが、その人たちも、ぜひ能登へ行きたいと言っています。

奥能登ビオトープを目指して

珠洲には、海も、川も、里も、森もあります。その自然環境とこれまでの文化遺産を生かして、無理に新しいものを作るのはなく、今の農業を振興しながら、珠洲市あるいは奥能登全体を含む大きなビオトープを作れたらと思っています。

珠洲市にはガンがたくさん来る池がありますし、ハクチョウもタンチョウヅルも来ていますし、昔はコウノトリも来たそうです。野鳥がもっと増えるようなことをやつたらどうでしょうか。

エコツーリズムやグリーンツーリズムはどこでもやっていますが、珠洲市の自然多様性を生かせば、そういう横文字ではない、長続きするものが必ずできます。ですから、小さなものでも合宿や勉強会、ワークショップなどを、ぜひ誘致されるといいと思います。

能登空港ができる便利になったとは思いますが、同時に、空港周辺の環境が一時的に荒れています。そういうことにもぜひ気をつけてください。

輪島で「トキのいた環境をもう一度」という話があり、そのとき私が申し上げたのは、そのためにはもっと大きな範囲でいい環境（里山）をつくらなければ、小さなビオトープを作ってもみ出てしまうということです。ぜひ大きな目標に長期的に取り組み、少しづつでもできることを、皆さんと一緒に考えてゆければと思います。



目次

- 珠洲市と私の関わり
- 珠洲市の里山:自然・文化遺産としての重要性
 - ・里山とは何か、
 - ・なぜ重要なか、
 - 「新・生物多様性国家戦略(2002)」環境省
- 金沢大学「角間の里山自然学校」
 - 研究・教育、地域への解放(里山メイト)
- これからの交流:珠洲市と金沢大学
 - ・里山を通じての交流(「角間の里山自然学校」等)
 - ・教育研究を通じて交流



「里山」とは

- 里山は新語(cf 奥山)
- 広辞苑 第5版(1998)
 - 人里近くにあって人々の生活と結びついた山・森林
- 日本の原風景:唱歌「ふるさと」
 - ・山、林、水田、畑地、池、小川・・
 - ・農家の生活に密着(薪・炭、落ち葉、緑肥・・)
- 里山の危機
 - ・宅地・工場などの造成、埋め立て→破壊
 - ・燃料革命、肥料革命、過疎化→放置(農作業なし)

レッドデータブック(RDB)

レッドデータ種(RDB種)
絶滅危惧種

珠洲市のため池は、
“ホット・スポット”



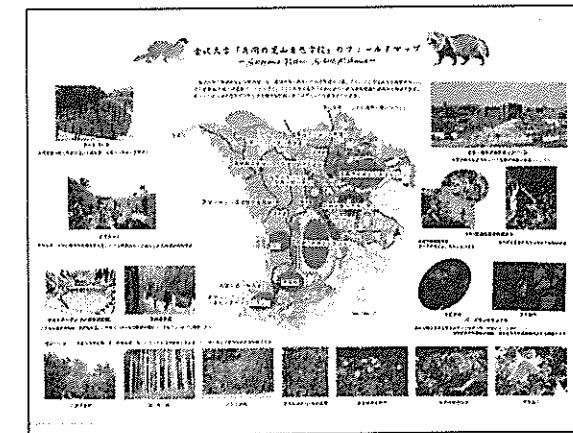
里山はなぜ重要なか

- 以前は軽視
 - ・里山「二次的自然」(適度な)擾乱の重要性
 - ・奥山「原生的自然」(人手の加わらない自然)
- 面積広い(国土の40%)
- 日本の風土、文化(水田)
- 絶滅の最前線(身近な生物)
 - 例:メダカ、ホトケドジョウ、タガメ
秋の七草(アミナエシ、フジバカマ、キキョウ・・)
- (都市の近くの)森林の役割
空気の浄化、騒音の除去・・

金沢大学「角間の里山自然学校」
あゆみ 1999~2002

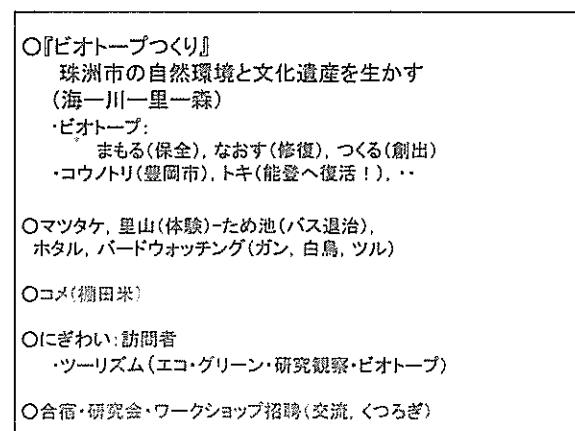
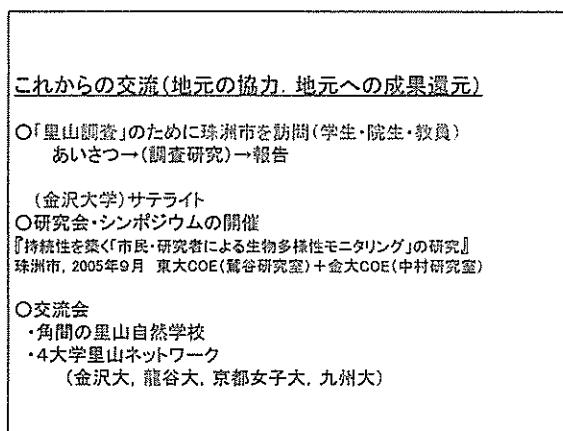
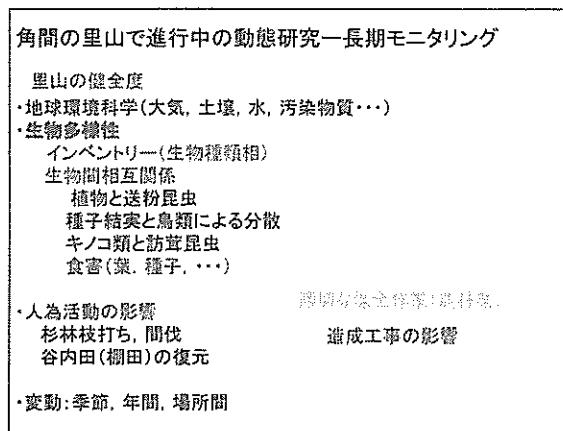
里山パンフ表紙

『いしかわの里山生態系を次の世代に伝えるために』(発行:石川県環境全部自然保護課、2004)



金沢大学「角間の里山メイト」の活動

提 言 金沢大学から



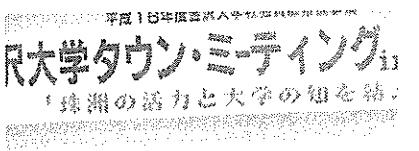
橋本 哲哉 (金沢大学理事(情報担当)・副学長・社会貢献室長)

大学の社会貢献

金沢大学の社会貢献は、知的財産本部を中心とした地域の企業や経済に対する地域貢献と、教育的な面での社会貢献の二つに分けられるのですが、私からは主に教育面での貢献についてお話しします。

先ほど中村先生からお話があった里山自然学校の活動は、教育的社会貢献の代表例ですが、そのほかにも金沢大学は、大学教育開放センターを設けて大学公開講座を開き、大学の知的蓄積を市民の方々に開放する文化的、教育的役割を果たしていました。これを積極的位置づけて、もっと充実させていこうと考えています。その一環として「金沢学」「手取川談義」といった地域に密着した講座を開催していますが、その珠洲版ができればと思っています。

さらに、約100万冊を収めた大学図書館を、ホームページで検索しやすい形にし、市民に利用していただけるようにしていきます。ただ、珠洲の方は距離的に難しいので、珠洲市の市立図書館を通して貸し出すことも考えています。



金沢大学からの七つの提案

珠洲での金沢大学の地域貢献として、今日は七つの提案を持ってきました。

一つめは、金沢大学公開講座を、珠洲に焦点を合わせて従来より充実させることです。これについては、今年度、金沢大学で行った公開講座の中から、幾つかのテーマを珠洲版にアレンジして珠洲公開講座を作りたいと考えています。

二つめに、遠隔授業システムを利用し、金沢の講座をこちらに送ってごらんいただくことです。今、大学で取り組んでいるのは、双方向システムで画面を通して質疑応答もできるものです。

三つめは、先ほどの話にもあった角間の里山と珠洲の里山との定期的交流で、できれば共同調査、共同研究の場ができるないかという提案です。

四つめは、共同研究の成果を、珠洲で研究会あるいはシンポジウムとして発表することです。その他同類の企画を珠洲で行うことを、大学がコーディネートして企画していくこうと考えています。

五つめに、金沢大学大学院法務研究科、いわゆるロースクールですが、その重要な仕事として、県内で模擬裁判を行い、市民に裁判制度を理解してもらうと同時に、司法修習生予備軍への実習を企画していますが、この模擬裁判を能登地域では珠洲で行いたいという提案です。

六つめに、金沢大学共同研究センターの技術相談窓口を珠洲に開設することです。

七つめに、学生の目を珠洲に向ける取り組みです。先ほど教育・研究上、珠洲をフィールドにするという話がありましたが、ほかにも、学生のゼミ合宿、調査旅行などでも大学として学

生の珠洲への関心を高められればと考えています。これについては、珠洲市側と場所、ヒト、モノ、力について至急協議をさせていただきたいと思っています。
これらの活動を平成17年度に少しやってみて、その結果を整理し、将来は大学共同の窓口としてサテライトを珠洲に開設することも検討課題にしたいと思っています。

話題提供 地域から

中市 英輝 氏（株中市鉄工所代表取締役社長）

珠洲の資源を生かす連携

私は鉄工所を経営していますが、工業製品は全国のメーカーがライバルであり、最近は中国など東南アジアの国々がライバルになってきています。その中で、珠洲は自然に恵まれていますが、我々にとっては市場から遠い点がネックになります。

トヨタ自動車が1兆何千億という利益を上げているのも、「ジャスト・イン・タイム」という、必要なときに必要な分だけ工場に納めるという制度があるからです。この制度を採用しようとすると、一日にトラックで何回も配達しなければならず、珠洲からではコスト的に不利になります。これは工業製品だけでなく、観光でも、同じ魅力を持った観光地であれば、より近いところ、楽なところへ流れしていくと思います。

そこで、我々が目指さなければならないのは、ほかにない魅力を持った製品やサービスを提供することです。そのためには人材が必要ですが、教育の機会は金沢などが多く、珠洲からは容易に通えません。また、我々自身が珠洲の素晴らしい素材について十分に理解しているとはいえず、それを生かすには内側にいる人間だけではうまくいかないと思います。そこを外部の専門家集団である金沢大学にご指摘いただき、また一緒に研究できれば、新しい珠洲の魅力に気づくことができるかもしれません。その意味で、先ほどの遠隔講座等のお話は非常に素晴らしいと思います。

特に珪藻土については、珠洲は埋蔵量日本一ですので、これを利用しない手はありません。あるいは、先ほどあった里山、海辺の里としての珠洲も考えられます。私自身、青年会議所で珠洲振興策として海の植林を提案しています。これは、コンブを養殖することが海の環境に貢献するという書物を読んだからです。これからおいしくなるカキについては、まずは山の整備から始めなさいといわれています。詳しいことは専門家の方にお聞きすると、もっと多くのことが分かると思います。

それから、私が県外へ行ったときによく指摘されるのは、能登杜氏の素晴らしさです。全国においてもトップ集団を形成する能登杜氏は、日本酒に限らず発酵学のプロです。その方たちと金沢大学とが技術を集結すれば、素晴らしいことができるのではないかと思います。また、農機具を修理する鍛冶屋さんは、現在、その技術を持つ人が少なくなり、大変貴重なので、そ



れについても県の工業試験場と一緒に何かできないかと考えています。

この機会に思いつくまま述べましたが、とにかく我々が持っている資源を持ち寄り、専門家集団である金沢大学とキャッチボールをしながら、ともに考え、行動していけば、素晴らしい成果が生まれると思います。

話題提供 地域から

中島 敬志 氏（珠洲市森林組合総括課長）

「珠洲アテ」の商品化

今、日本の林業は、ゲンゴロウと同じ絶滅危惧種に近くなっています。ただ、その中からも新しいことを考えていくとすると、結局、足元を見直したほうがいいと思うようになりました。

奥能登にはアテという木があります。これは東北ではヒバといって、どちらも「あすなろ」のことです。江戸時代前半、人工造林に成功したのが能登のアテの林業でした。ただ、光が当たり研究されたのは、輪島のマアテと穴水のクサアテだけで、あとは全部ひっくり返してカナアテと呼ばされました。しかし、珠洲アテは戦争のときの強制伐採でほとんど切られ、終戦時には珠洲に2か所しかアテの原生林は残っていませんでした。

ところが最近、珠洲アテが、材質的に垂直でねじれがなく、強いということで見直され始め、先日も新潟から「珠洲アテの苗木はないか」といって1000本単位で注文が来るようになりました。特に戦後、全国的にスギばかりが植林され、今は國から間伐をしろ、間伐しろといわれていますが、アテは陰樹なので間伐したところに植えるにはいいのです。それで、スギを切ってしまえば嫌でも珠洲アテだけが残る、そんな気の長いことを考えています。

よくヒノキチオールが入っている育毛剤がありますが、実はヒノキにはヒノキチオールは含まれていません。あれは最初にタイワンヒノキから見つけた成分であったためにああいう名前になっただけで、日本のヒノキにはないのです。では、何に入っているかというと、ヒバ、アテなのです。

それが開発されて歯磨き粉や化粧品などがたくさんできていますが、アトピーにもいいらしいということで、ヒバ油の商品が青森などから出されています。今はヒノキチオールも化学的に合成できるそうですが、やはり本物のヒノキチオールのほうが魅力があるのではないかでしょうか。そういうときに、研究者の方にきちんと分析していただいて、商品化できれば面白いのではないかと思っています。

これからもいろいろなことを吸収したいと思いますので、皆さん、たまに森林組合に寄付いろいろなことを教えてください。



意見交換会

コーディネーター：平野 武嗣（金沢大学産学官連携チーフコーディネーター）
金田 直之（珠洲市企画振興課主幹）

(平野) 大学からの七つの提案と、珠洲のお二人から話題提供がありました。その共通の目標は地域振興ですので、それに関するご意見を伺っていきたいと思います。

(A) 橋本先生が言られた3点めの里山体験学校ですが、都会の子はいろいろな虫や動物を知っていますが、案外珠洲の子が知らないのです。ですから、ここを特色ある自然動物園にしてほしいのです。

二つめに、珠洲は宣伝が下手なのです。それで、もっと奇抜な、例えば海底温泉をつくるというはどうでしょうか。

(中村) 珠洲市のため池や里山などの資源と、その自然動物園をどうつなぐかです。同じ珠洲の自然でも西原さんのような昆虫の専門家と、地元の方では同じような言葉を使っていても理解や感じ方にはかなり違いがあると思います。私もぜひ一緒に珠洲の山や海や田んぼを歩いてみたいと思いますので、お声をかけてください。

(平野) 突然動物園を造るわけにもいきませんし、今から地道な活動を始めるということで、近い目標としてそういう動物園を実現することを頭に置きながら、中村先生がたの活動と地元の皆さんとの受け入れをお願いしたいと思います。

二つめの海中温泉は大変面白いのですが、かなりの投資がいると思います。

(B) クズについて研究してほしいと思います。「吉野葛」はイモのほうを利用しているそうですが、クズの花はいい匂いがしますし、葉にも栄養があると思います。それを何かに利用できいかと考えています。

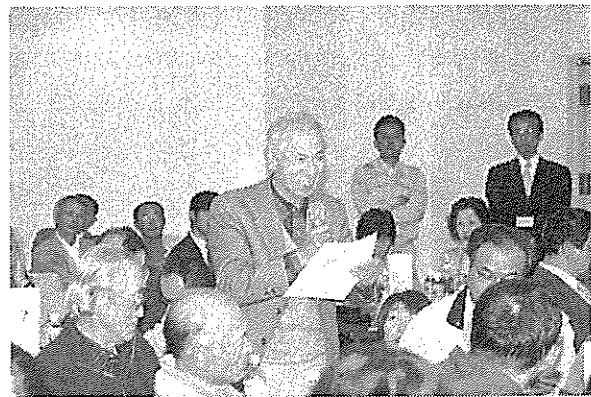
もう一つ、大浜大豆で地域振興を図ろうと、横山の方が一生懸命努力されています。それも普通のものと違った成分があるというデータが出ればいいなと思っています。

(中村) 薬学部の先生に言わせると、どの草でもみんな薬草なのです。クズも「葛根湯」といって根が薬になります。私はよく知りませんので、その先生に話してみます。その他、興味ある問題を教えていただければ、大学に持ち帰りたいと思います。

ただ、角間の里山にクズが茂って困っています

で、どうしたらいいか、ぜひ皆さんに教えていただきたいと思います。

(金田) 大浜大豆は、収穫時期や色の問題がある、一時期市内ではほとんど作付けされていなかったのですが、珠洲市の先端にある灯台で有名な狼煙町の横山地区が品質に目をつけて復興に取り組まれています。それについてぜひ研究していただけないかというお話をしました。



(平野) うちの大学には農学部がないので難しいかもしれません、いずれにしても持ち帰つてできるだけのご返答をいたします。

(C) 1点めは、大学から見て、珠洲のイメージをどのように感じておられますか。例えば輪島といえば、輪島塗、朝市、気象情報などがピンときますが、珠洲はどうでしょうか。

2点めは、大学からの七つの提案は大変素晴らしいことばかりでした。距離や時間などの問題点もあるうかと思いますが、それはＩＴを駆使すれば十分対応可能だと思います。今は地域振興に燃えている時期ですので、理論も大事ですが、できることから即実行すること、例えば七つのグループに分かれて、そこで議論しながら実行していくことが大変大事だと考えています。

(平野) 珠洲市の印象について、副学長から何かコメントはありますか。

(橋本) 珠洲といえば、これまで何といつても原発の問題が、大学に限らず全国的なイメージでしたが、それを超えて地域振興されようとしているのですから、その問題はもう争うべきではありません。新たな珠洲のイメージは、珠洲の皆さん自身が作って示していくべきであり、今まで我々はそのお手伝いをすることです。

(平野) 私の個人的な珠洲のイメージは、音楽のまちです。珠洲の高校のマーチングバンドやプラスバンドは全国のトップレベルであり、市民の合唱コンクールも全国レベルで入賞しているそうです。オーケストラ・アンサンブル金沢も毎年公演に来ていて、音楽監督の岩城さんや団員も珠洲を大変好んでいます。さらに、来年には約17億円の予算でコンサートホールができると聞いています。



アメリカのボストン近辺に、タンブルウッドというミュージックセンターがあり、ボストン交響楽団のサマーキャンプの場所になっています。キャンプするだけでなく、そこで子供たちに音楽を教えたり、コンサートをしたりしていて、それを目当てに数万人規模の観光客が来るそうです。

珠洲でも夏の終わりごろにここでオーケストラにキャンプをさせて、一大音楽祭を設けたらどうでし

ようか。その際、プラスバンドの全国大会や国際キャンプフェスティバルを誘致するなど、音楽に関連していろいろなことができると思います。

2番めの、議論より実行ということについては、我々も考えています。それには、まず市で幾つかのグループを作つて実行に移されることが、地域振興には大事だと思います。それを大学は力の限りサポートするというのが現実だと思います。

(D) 珠洲市の活力という部分で、若年層をこのようなミーティングに多く参加させて、先輩方の背中を見せて育てる環境を作るにはどうすればいいでしょうか。

(浅野) いかにして若い人を巻き込むかは、どこの地域でも大きな課題です。ただし、うまくいっているところもあります。それには大人は口出しせず、とにかく若い人たちに任せてしまうことです。それは逆に、大人の側が若者たちをあたたかい目で見られるかどうか、度量の広さを試される気がします。いずれにしても、一定の予算の中で任せてしまうというやり方も、若い層を育てることになると思います。



(平野) 先ほど珪藻土の話がありましたが、大阪からおいで吉田さんは、珪藻土の商品化を考えて当地に来られているそうです。どのような取り組みをされているのか教えていただけますか。

(吉田) まだ具体的ではないのですが、多孔質の珪藻土は湿度をよく吸うし、逆に湿度をよく出すという作用があるので、建材などにいいのではないかという案があつて、それを珠洲市と一緒に研究開発できればと思っています。

(E) 金沢大学の学生さんが、塩づくりの論文を書きたいということで協力したことがあります。私は、初めは学生に何が分かるかとかをくくっていたのですが、仕上がったものは非常によくできていました。それは、珠洲に生まれて育った人間では気がつかないところを学生さんがしっかり見ていましたからだと思います。私どもの持つエゴが塩づくり産業の発展を阻害していると指摘されたようで、反省させられました。それがあつて、これからもさらに私どもの地域を外から見ていただけるチャンスが欲しいのです。

珠洲市は、原発に代わるものとして観光を柱に据えているので、特にその点が大事だと思います。

(平野) このミーティングの目的はそこにあります。何人か寄れば違う知恵が出てくると思いますので、ぜひ胸襟を開いて大学を受け入れていただきたいと思います。



(F) 大学生や西原さんにも泊まつていただきたいのですが、そういう方たちがまちに入つてくるとすごく活気づくので、ぜひ入つてきていただきたいと思います。

(平野) 珠洲は、外国の方のホームステイも快く受け入れられると聞いています。そして、ここへ来ると、東京・大阪・京都では見られない本当の日本の姿が見られるといって喜ぶ方が多いそうです。そういうほかにない点でアピールされるのがいいと思います。



(G) 実は珠洲にも角間というところがあります。ここもまさに里山で自然に満ちていますが、昔は三十数軒あった集落が6軒ほどに減った過疎の場所です。実は「白山麓僻村学校」というのがあって、その分校をつくつてもらえないかと頼んでいますが、それには先生が必要です。その役割を金沢大学の皆さんにお願いしたいと思うのですが、何人集まれば来ていただけますか。

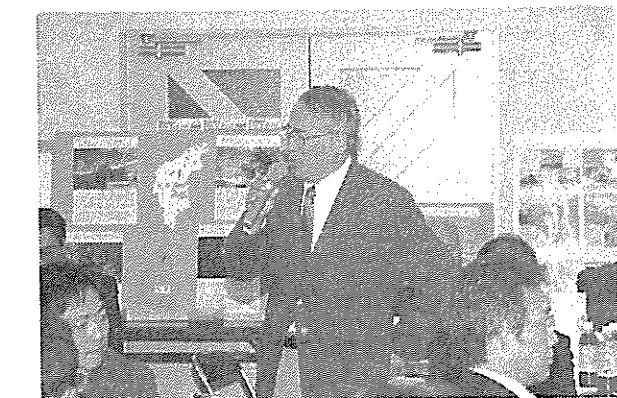
(浅野) 私は毎年珠洲市の公民館に来ていますが、100人だろうと5人だろうと、私が伝えたいことは一緒です。そこに来てくれた方はありがたいですし、少しでも地域を見直して「私たちも地域にかかわることができるんだ」という気持ちを持って帰つていただければいいというつもりでいます。

それが大学の教員すべての気持ちかどうかは分かりませんが、全体としては地域の皆様に支えられて大学があるというとらえ方をしたいと思っています。ですから、人数は全く心配しないで、声をかけていただければと思います。何人かというよりは、「こんなことを学びたいが、そんな先生が大学にいるか」というほうが前提だと思います。

(H) この話をしたのは、その角間に非常にユニークな家が1軒あるからなのですが、せいぜい10人しかいりを囲んで話せません。でも、ぜひそういったことがやれればと思っています。

(I) 私は井の中の蛙です。どうすれば井の中の蛙から脱却できるでしょうか。

(平野) 共同研究センターの瀬領さんは、民間会社に40年近く勤めて経験豊富ですので、コメントをお願いします。



(瀬領) 一度井戸から出てみたらどうですか。私の経歴は、最初は外資系、次に日本の会社、そして大学と転々としていますが、そのたびに面白いことが経験でき、新しい発見をしました。ですから、まずは動くことです。そうでないと、いつまでも井の中の蛙です。

最初にいた会社で、私は「日本の会社はこん

なにいいですよ」といって、欧米に売りにいっていました。そして、向こうの大会社の社長が「日本はどうやっているか教えてください」と言ってくるようになったのが20年くらい前です。ところが、今は日本がおかしくなっています。

何がいちばん問題かというと、毎年収入が増えるという前提で経営してきて、今は毎年収入が減る国に変わってしまったのに、前のやり方を変えられない、そこから出られない会社が不況なのです。そこから出て、日本の国の市場が小さくなっていることを自覚した会社は伸びています。そう考えると、やはり一度出てみたらどうですかと言うしかありません。

(平野) 石川県企画開発部高等教育振興室の横井室長が見えていますが、今の質問にお答えいただけますか。

(横井) 金沢大学を振興させていただく立場からいうと、大学の先生は教育や研究という背景があって、地域貢献という立場で地域に自分たちの知を還元しようということなので、正直いってまだ拙いところがあると思います。

ただ、今まで先生が地域とつながりを持つて個人レベルでやっていたものが、組織としてやるようになり、これがうまくいかなかつたら金沢大学の責任になるので、かなりの責任感を持ってこの場におられると思います。それをお分かりいただいて、あたたかい目で見て、珠洲市の皆様には引き続き金沢大学と一緒にやっていただければと思います。

大学の先生方は非常に忙しくて、どこからも声がかかる状況だと思いますので、むしろ皆さんが熱意を持ってどんどん引っ張れば、先生方は珠洲のために何かやろうという気になると思います。

先ほどあったように、角間の里山メイトは400人もいらして、中村先生を盛り上げているわけです。それに負けないように、珠洲市も人を集めて先生を盛り上げれば、先生は金沢大学の里山を放ったらかしてもこちらに来てくれると思います。皆様方の熱意で「自分たちはこんなことができる。だから一緒にやろう」というアプローチをしていただいたほうがより成果が上がります。



があって、地域貢献という立場で地域に自分たちの知を還元しようということなので、正直いってまだ拙いところがあると思います。

ただ、今まで先生が地域とつながりを持つて個人レベルでやっていたものが、組織としてやるようになり、これがうまくいかなかつたら金沢大学の責任になるので、かなりの責任感を持ってこの場におられると思います。それをお分かりいただいて、あたたかい目で見て、珠洲市の皆様には引き続き金沢大学と一緒にやっていただければと思います。

大学の先生方は非常に忙しくて、どこからも声がかかる状況だと思いますので、むしろ皆さんが熱意を持ってどんどん引っ張れば、先生方は珠洲のために何かやろうという気になると思います。

先ほどあったように、角間の里山メイトは400人もいらして、中村先生を盛り上げているわけです。それに負けないように、珠洲市も人を集めて先生を盛り上げれば、先生は金沢大学の里山を放ったらかしてもこちらに来てくれると思います。皆様方の熱意で「自分たちはこんなことができる。だから一緒にやろう」というアプローチをしていただいたほうがより成果が上がります。



まとめ

橋本 哲哉（金沢大学理事(情報担当)・副学長・社会貢献室長）

地元に期待する活力とは

今日、我々は具体的提案をいくつか持つてきました。そして、大学にはその提案を実現する知と力があると思っています。それを珠洲市の活力と結びつけたいという気持ちでここに来てきます。

確かに珠洲にはいい素材があることは示していただきましたし、我々は帰ってそれを学内の研究者に報告します。しかし、例えばクズは角間の森林にも山ほどあって退治するのに困っているくらいなのに、それを珠洲に来て研究しろと言われてもなかなか動けません。

我々が言う活力とは、そのクズを刈り取ってもう用意してあって、「分析の領域はこれで、私はそれに対してこれだけの力を提供する。だから一緒にやりませんか」と、そういうことをわれわれは期待したいのです。

私が七つの提案をしましたが、「そのためおれはこれだけ協力しよう」という声は、残念ながらあまりいただけませんでした。例えば模擬裁判で、「面白そうだ。おれはそのとき容疑者役になってやる」、これが地元側へ我々が期待する活力なのです。

平野さんが、珠洲には音楽的な活力があるから、それを利用すればこういうことができるという提案をされました。私はそれを平野さんではなく、珠洲の方が提案されることを期待しています。

もちろん、全然なかつたわけではありません。ヒノキチオールを作りたいから分析してほしいというお話をありました。それで、小さいながらもベンチャーを立ち上げようと思うというここまで言っていたければ、共同研究センターでどの程度実現性があるか検討しましょうという話になるわけです。

このコメントを言っておしまいではありません。実はもう一度来るつもりです。そのときも我々は「珠洲の活力と大学の知を結ぶ」というテーマを再び携えて来るつもりですので、珠洲側からも、こういう活力を発揮できるということを出していただきたいのです。

僻村学校の分校はいいアイデアだと思います。それで、「実は分校長は自分がやる。この家はもう契約してある。ここの講座に大学側が出てこい」という話のほうが、実現性は高いと思います。それが三つ四つ、七つ八つと重なれば、我々としてもここに金沢大学のサテライトキャンパスをつくる方向に動きだすことができます。

辛口のまとめで申し訳ありませんが、これを我々側のやる気だと受け止めていただければと思います。



挨拶

成之坊 良輔（珠洲市教育長）

なぜこの会が、珠洲市教育委員会の共催なのかというと、企画の金田と私が足を運び、金沢大学にお願いしたからです。皆さんの熱意があれば、我々はこれ一回きりで終わらせたくないという意図を持っています。

サテライトについても、市長に申し上げて前向きに検討させていただいている。確実にできるとまでは言えませんが、市長も地域振興のための一手段として真剣に考えておられることだけは事実です。その意味で、足を運んだ意味があったと私自身喜んでいます。

金沢と珠洲は確かに距離はあります。しかし、金沢大学も珠洲市の地元の大学の一つですから、気持ちの距離を近づけていくことは十分できるのではないかと思っています。



日程

日 時	平成16年11月18日(木) 18:30~21:00
会 場	珠洲市産業センター(珠洲市上戸町北方1-6-2)
主 催	金沢大学
共 催	珠洲市、珠洲市教育委員会、金沢大学・石川県・金沢市連絡協議会
大 学 側 出席者	橋本、鈴木、中村(浩)、上口、山本、掛野、中村(晃)、笠木(以上社会貢献室)、由良(情報部)、瀬領(共同研究センター)、平野(产学官連携チーフコーディネーター)、浅野(大学教育開放センター)、井川、水橋(以上総務部)、田辺、木村、赤石、大脇、宇都宮(以上角間の里山自然学校)
石 川 県 側 出席者	横井理夫、山野猛(企画開発部企画課高等教育振興室)、松島一富、石谷直之(企画開発部企画課地域振興推進室)

プログラム

テーマ：「珠洲の活力と金沢大学の知を結ぶ」

プログラム (18:30~21:00)			
18:30 ~18:40	10分	あいさつ	橋本 哲哉(金沢大学理事・副学長・社会貢献室長) 貝藏 治(珠洲市長)
18:40 ~19:10	30分	講演	「大学を地域にひらく：金沢大学「角間の里山自然学校」の取り組み」 中村 浩二(金沢大学自然計測応用研究センター教授)
19:10 ~19:25	15分	提言 (大学から)	橋本 哲哉(金沢大学理事・副学長・社会貢献室長)
19:25 ~19:30	5分	(休憩)	
19:30 ~19:50	10分	話題提供 (地域から)	中市 英輝 氏((株)中市鉄工所 代表取締役社長) 中島 敬志 氏(珠洲市森林組合 総括課長)
19:50 ~20:45	55分	意見交換会	コーディネーター：平野 武嗣(金沢大学) 金田 直之(珠洲市)
20:45 ~20:55	10分	まとめ	橋本 哲哉(金沢大学理事・副学長・社会貢献室長)
20:55 ~21:00	5分	閉会挨拶	成之坊良輔(珠洲市教育長)

出席者

92名